

はじめに

地球研平成 21 年度フルリサーチ (FR) 研究「社会・生態システムの脆弱性とレジリアンス」は本プロジェクトとしての 3 年目を無事終了した。本プロジェクトは地球研の 5 つの領域プログラムの中で唯一「地球地域学プログラム」に所属している。

平成 21 年度は若手の研究員が長期にザンビア南部州に滞在し、精力的にデータを収集した。今年度は調査をスタートしてから 2 年目の雨季を終え、3 年目の雨季の収穫期に入るところである。東部州ペタウケ郡での、異なる休閒システムが作物収量と土壌に与える影響を調べる実験は継続中である。南部州シナゾングェ郡では、2007/2008 年の農作期に平年の 2 倍を超える 1600 mm の雨量を記録したが、大雨を受けた家計において食料消費が減少していることを明らかにした。農民達は、サツマイモやマメなどへの作付けの転換や、さまざまな現金獲得手段によって、この状況を克服していることが明らかになった。政府系の食糧援助の配布世帯の決定プロセスに関するローカルレベルの分析も進んでいる。衛星データや航空写真を使った土地利用と植生被覆の歴史的変遷の状況把握と広域世帯調査のデータ分析も進行中である。

平成 21 年 4 月にはボンで開催された IHDP2009 オープンミーティングに 8 名のプロジェクトメンバーが参加し、2 つの企画セッションとポスターセッションで発表を行った。8 月にはトンガ研究の第一人者であるカリフォルニア大学バークレー校のエリザベス・コールソン名誉教授をお招きして、ルサカで大学研究者、政府関係者、NGO スタッフ、国際援助機関のスタッフを交えてルサカで第 2 回ワークショップを開催した。「レジリアンス」という視点はとても新鮮に受け入れられ活発な議論が行われた。10 月には、3 年前に地球研が上賀茂の新施設に移動した年に第 12 回レジリアンス研究会の講師をしていただいたインディアナ大学のエリノア・オストロム教授がノーベル経済学賞を受賞するといううれしいニュースもあった。

プロジェクトメンバーの方々にはプロジェクトの順調な発展のためにご尽力をいただき感謝したい。また地球研のプロジェクト評価委員会 (PEC)、所長、プログラム主幹、管理部および研究部スタッフの方々にこの様な統合プロジェクトを実施するためにご支援いただいたことに感謝申しあげる。プロジェクト終了までの間にレジリアンス研究をさらに発展させる基盤をつくるように尽力したいと考える。

平成 22 年 3 月

総合地球環境学研究所

E-04(FR3) プロジェクト・リーダー

梅津 千恵子